

12p
詩集
魚の記憶
西岡光秋

14p

9p
~~本馬社~~
1963
82

夜の底

くらしいビル街の夕ぐれを歩く
くらしいビルのまこうに
華やかな灯がある

くらしいビルの下を
ああ しろく光る壺に
田舎の花のにおいを詰めて

都会に出てきた日

透明に耀いた簪を振って歩いていった

人の波を抜けて
くらしいビルの下を歩く
ちいさなうたが
いっばいのかなし
炉鉤のかかった
ただっひろい炉端の冬の夜のような
くらしいビルの下を歩く